



とのやま

【学校教育目標】生き抜く力を身につけ、自ら輝く生徒の育成

【目指す生徒像】自立のために自律できる生徒



富士見台中学校HP

心ひとつの置きどころ

朝起きたら外は冷たい雨、天気予報もご存じのとおり。

体育祭は延期になりましたが、皆さんはこの雨を「生憎の」ととらえますか？それとも「楽しみがまだまだ続くぞ」「いい休養となった」と捉えますか？

テレビ番組でおなじみ、俳人の夏井いつきさんは

俳句の世界には「生憎」はない、夜空に月が見えなければ、月が見えないことを俳句にすると考えるものだ。

と話しています。このような考え方を「無月を楽しむ」と言うそうです。

俳句を詠む人、俳人の世界では『生憎』という言葉はないと言われています。例えば今日はあいにくの雨で桜を見ることができないというのが一般的な感覚ですが、俳人たちは「これで雨の桜の句を読める」と考えます。雲に隠れて中秋の名月が見えないときには「無月を楽しむ」、雨が降ったら「雨月を楽しむ」と捉えるということです。夏井さんは、これは日本人ならではの精神であり、俳人の心根にあるものかもしれないと夏井さんは言います。その精神で俳句を続けていくと、個人的な不幸や病氣、苦しみ、憎しみなどのマイナスの要素がすべて句材となるように思えてくると語っています。それまで何をやってもマイナス思考で、螺旋階段をぐるぐる回って果てしなく下っていくように生きていた人たちが、ものの見方が全く変わり、生き生きとした人生を送るようになる。そういう姿を幾度も目にして、俳句の力を実感したそうです。

また、作家の三浦綾子さんは、

一見、マイナスに見える体験というものが、どんなに人を育てるための大事な体験であることか。そのマイナスの体験が、やがて、多くのプラスに変わるのではないだろうか。

と語っています。

お二人の言葉から、何事も心ひとつの置きどころではないかと考えます。体育祭に向けて各団・各学級で練習を重ね、今日に向けて「よし、やるぞ」と自らを奮い立たせてきたことでしょう。でも、長い人生、今日のようなことはあるものです。

きっと皆さんは20日(火)に向けて、身構え心構えを整えていることと思います。雨の日があったからこそ、晴れの日喜び、体育祭が実施できる喜びが一層大きく感じられるはずです。

皆さんの笑顔と活躍を、心から楽しみにしています。

この便りは、保護者の方にもお渡しして読んでいただけてください